

# JFEグループのTCFD開示対応

～機会とリスク、シナリオ分析～



2021年 3月 12日  
JFEスチール(株) 専門主監  
手塚宏之



# TCFD提言に沿った開示の取り組み

JFEホールディングスは、2019年5月27日、  
TCFD※最終報告書の趣旨に対する賛同を表明しました。



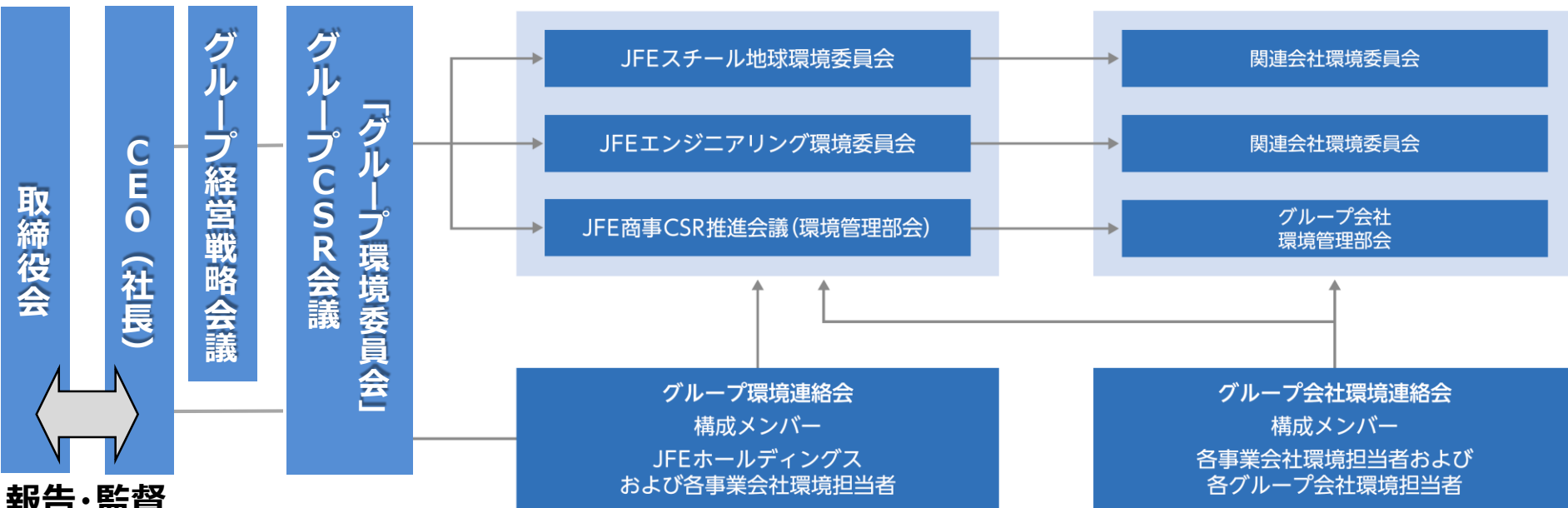
※ G20財務大臣および中央銀行総裁の意向を受け、金融安定理事会（FSB）が設置した「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」。

TCFDの提言に沿った分析・評価を通じ、JFEグループの**ガバナンス**や**事業戦略**が、**気候変動**に関する**リスク管理**と**機会獲得**に適応していることを確認

## ガバナンス

- CSR重要課題として「地球温暖化防止」を特定し、円滑なPDCA・適切なマネジメントを推進
- 「**グループ環境委員会**」で対応方針を議論し、取り組みを監督・指導
- 重要課題は**グループ経営戦略会議**で審議、**取締役会**へ報告を実施し、活動を監督

## ■ JFEグループのCSR推進体制



# 戦略：シナリオ分析の概要

2つのシナリオ設定のもと、7つの重要要因を選定。**気候関連リスク・機会を評価し、将来の事業戦略策定に活用**

		2℃シナリオ	4℃シナリオ
参照シナリオ	移行	・国際エネルギー機関(IEA)による移行シナリオ → <b>持続可能な発展シナリオ(SDS)、2℃シナリオ(2DS)</b>	・国際エネルギー機関 IEAによる移行シナリオ → <b>新政策シナリオ(NPS)、参照技術シナリオ(RTS)</b>
	物理影響	・国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)による気候変動予測シナリオ → <b>代表的濃度経路シナリオ(RCP)</b>	
シナリオによる社会像		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>大胆な政策と技術革新により気温上昇を2℃未満に抑制</b></li> <li>➢ 脱炭素社会への<b>移行に伴う社会変化が事業に影響</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 各国政策が実施されるも<b>気温が4℃上昇</b></li> <li>➢ 温度上昇等の<b>気候変化が事業に影響</b></li> </ul>

		重要な要因	評価結果
2℃シナリオ	①鉄鋼プロセスの脱炭素化	機会	・既存技術に加えて革新技術を開発・実装
		リスク	・革新技術導入の投資負担は可能 ・公平なカーボンプライス導入によりコスト競争力維持
	②鉄スクラップ有効利用ニーズの高まり	機会	・スクラップ供給量に制約があり、転炉鋼生産は増加 ・電炉鋼生産、電炉エンジニアリングの拡大 スクラップ物流ビジネスが拡大
		機会	・EV化で電磁鋼板の需要増加 ・自動車販売台数の増加で特殊鋼需要増加 ・自動車用高張力鋼板の需要増加 鋼材のリサイクル性に再注目
	③自動車向け等の鋼材需要の変化	機会	・EV化で電磁鋼板の需要増加 ・自動車販売台数の増加で特殊鋼需要増加 ・自動車用高張力鋼板の需要増加 鋼材のリサイクル性に再注目
		リスク	・マルチマテリアル化の影響は限定的
④脱炭素を促進するソリューション需要の拡大	機会	・再エネプラントの一貫施工・運営 ・ごみ焼却炉、プラスチックリサイクルプラントの一貫施工・運営 ・CCU、CCS設備の一貫施工 低炭素ビジネスの海外展開	
4℃シナリオ	⑤原料調達不安定化	リスク	・具体的対策を推進中 [代替、分散調達]
	⑥拠点損害	リスク	・洪水、渇水対策などは既に実施中 ・海面上昇による浸水影響は対応可能レベル
	⑦国土強靱化	機会	・鋼材、関連製品でインフラ強化

## JFEグループの中長期ビジョン：CO<sub>2</sub>排出量削減目標

**鉄鋼事業において2030年度のCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比で20%以上削減することを目指す**

2030年度  
に向けて

JFEスチール社長直轄プロジェクトチームを立ち上げ、様々な施策の検討を開始

日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画には主体的に参画

社会全体の脱炭素技術インフラの整備が進むことに合わせて、  
**2050年以降のできるだけ早い時期に、  
JFEグループのカーボンニュートラルを実現**すべく取り組む

2050年に  
に向けて

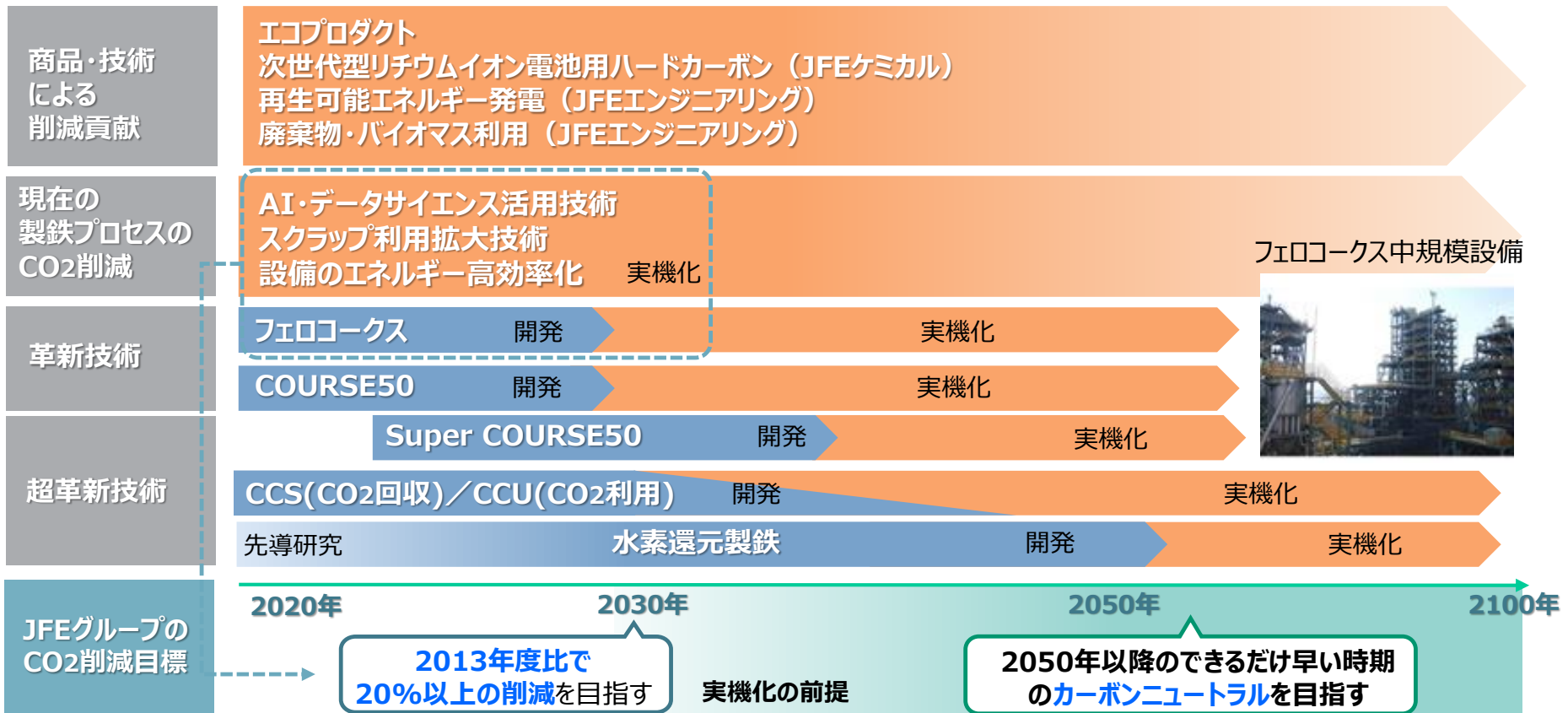
2050年までのできるだけ早い時期にカーボンニュートラルを実現する新技術の  
メニューの提示が可能となるよう研究開発を加速

# 指標と目標：カーボンニュートラル実現に向けて

## JFEグループのカーボンニュートラル実現に向けたCO<sub>2</sub>削減ロードマップ

**2030年に向けて**：現在の製鉄プロセスのCO<sub>2</sub>削減や、開発中のフェロコークス製造技術の適用拡大等により、20%以上の削減を目指す

**2050年に向けて**：安価で大量な水素供給等の社会インフラが整備されれば、速やかに実用化に繋がられるよう、様々な革新的技術の開発を推進





**JFE**

Copyright © 2021 JFE Steel Corporation. All Rights Reserved.

---

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい